

***親子で納得 ニュースな経済学



経済ジャーナリスト・内田裕子

不況のなか経済が活発な中国

中国・上海に取材に来ています。2010年5月1日から10月31日まで行われる、上海万国博覧会を前に、街はにぎわいを見せています。期間中、世界中から訪れると予測されている約7000万人の観光客や記者、カメラマンらを受け入れるために、街はどんどん整備されて、きれいになっています。さて、いま、多くの国が不況で苦しむ中で、経済が元気なのが中国です。でも、中国経済が大きく動き出したのは1990年代後半からと、じつは最近のことです。それ以前、中国は外国との経済交流がほとんどなかったため、社会の中でお金がまったくまわらず、貧しい時代が続いていました。しかし、80年に中国政府が「対外開放」といって、外国からの投資（事業などに出す資金）を受け入

れるようになってからは、これまで順調に進まなかった経済が徐々に動き出しました。

中国政府は外国企業が中国に進出するときに、中国の国営企業といっしょになってビジネスを行うことを条件にしました。まったく利益を出せず、負債（借金）がふくらんでいた中国国営企業の立て直しを外国企業にまかせて、雇用も確保しようという戦略でした。外国企業にとっては不利な条件でしたが、多くの外国企業はその条件を受け入れました。その動機となったのは中国の13億人という人口です。中国は発展しているとちゅうで、これからもっと豊かになっていけば、国民が商品などを買う力はたいへんなものになります。もしいま、中国市場で後れをとったら、将来、大変な損害になると外国企業は危機感を持っていたからです。その結果、中国には世界中からヒトとお金が集まってきて経済国に成長してきたのです。

中国は鉄道や道路など、国民が快適な社会生活を送るために必要な設備がほとんどありませんで

したから、中国の主要都市では、いま、建設ラッシュが起っています。そしてますます経済が活発になっています。日本企業も積極的に中国市場に進出して中国とは年々かわりが深くなっています。中国では、日本製品は品質が良くて安心安全だと評価されています。そんな背景もあり進出企業数は2万3035社（2007年末）にふくらみ、いま、日本が一番取引をしている国は今年、アメリカから中国に代わりました。上海万博もありますし、ぜひ、中国経済に注目してみてくださいね。

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。



二〇一〇年に開かれる上海万博のマスコット「海宝（ハイバオ）」二〇〇七年、中国・上海で
©朝日新聞